

第83回役員会 議事要録

日 時：平成28年8月31日(水)15:00～16:00

会 場：大学本館 E-703会議室

出席者：石原理事長、近藤副理事長、片山理事、梶原理事、松尾理事、吉永理事
(オブザーバー) 中野(昌)監事、中野(利)監事、漆原副学長

報 告

- 1 第3期中期計画(素案)について
- 2 平成27年度法人評価委員会の評価結果について
- 3 教員の採用について
- 4 海外インターンシップの実施について
- 5 オープンキャンパス2016の実施状況について

報告1 第3期中期計画(素案)について

<質疑応答>

- 非常によくできていると思うが、これだけあると、教員の負担が増えるのではないかと。ICT等で教員の負担を軽くするとあるが、この部分はどのように考えているか。また、学生に魅力ある大学を作るという内容をどこかに書き加えるといいのではないかと。
- 中期計画の数について、第1期中期目標の約40数項目に対して中期計画は169項目、第2期中期目標の約10数項目に対して中期計画は70項目、そして、第3期では21項目の中期目標に対して68項目の計画としている。このような数の変化は、実行できる範囲がわかってきたためであるが、ある部分への負担の偏りは大きいと感じている。そのため適材適所、配置の比重は考えていく必要はある。外部資金の獲得目標はこれまで5億としていたが、次の計画では6億としている。外部資金で重要なことは、その予算で特任教員や職員の人材を確保できることである。事業の内容によって、力を入れていきたい所に人員を配分していくことが重要になってくる。一方で、インセンティブとしてサバティカル等で研究の機会を確保しているが、完全に機能しているとは言えないため、制度を運用していく中で改善していく必要がある。必要な個所については人員を補充していかなければならない。また、学生の魅力については意見があったとおりで、最近、高校に出前講座へ行った際に高校生から本学に進学したいとの声があったり、父兄から本学について再認識していただいたりした。情報発信の中で大学の魅力をどう伝えていくかが課題であり、今ある魅力を十分に伝えていきたい。5年前から魅力発信プロジェクトを実施しており、広報の中でプロジェクトを活用していきたい。また、大学の魅力と言え、学生の夢をかなえる事であり、学生が夢に向かってチャレンジできる仕組みを考えていく必要がある。そのためには、柔軟な大学運営が必要不可欠となってくる。卒業までに何を学ぶのか、これを6年に1回のカリキュラム改善で見直していく。その中に、北九州市の良さも含めた形で、大学の魅力と同時に生活空間の魅力というものを考えていく必要がある。それが、シビックプライドとなり、4211ab.の活動を通しながら醸成されていく。ただ、受け手側である学生が魅力と感ずるかどうかという問題があるので、学生にアンケート等で調査して確認していきたい。魅力を計画の中に盛り込むのは難しいが、中期計画のそれぞれの項目の中で魅力を作っていきたいし、その視点は重要である。
- 中期計画の策定にあたっては、ボトムアップで行っている。内容については各教員から提案されおり、教員は負担をある程度覚悟していると思われる。提案されたものの中には、個別の問題等もあり、計画に反映していないものもある。また、計画の中には、第3期と記載しているものの、継続性がある項目もかなりある。既に今年度からスタートしているものもあり、そのため準備ができている項目もあることから、実施できる範囲と考えている。
- 行政サイドから見ると、要望はかなり盛り込まれおり、その分が追加となっており、大変だろうと感じている。どうしてもCOC+や地域貢献、地元就職の定着等に負担がかかるだろう。
- COC+は補助金があるが、ESDやグローバルパイオニアは補助金が切れるため、予算確保が前提となってくる。競争的資金の獲得も大変だろうが、どこの大学も力を入れて獲得しようとしているため、本学の教員も獲得に向け動かなければならない。
- 予算がないと研究ができないため、積極的な教員は申請している。間接経費の活用も検討していきたい。

- 大学の定員充足率については、ここにも記載があるが、法人評価委員会でも指摘されている。
- 国際環境工学研究科やマネジメント研究科は定員を満たしているが、法学研究科や社会システム研究科は課題となっている。
- グローバル事業については、今年度で補助金交付が終了するが、世界で活躍する人材を育てるため、力を入れておかなければならない。学生支援コーディネーター、すなわちスタッフ支援組織を含めた対応が必要となってくる。
- 先生だけに負担をかけてはいけない。何らかの形での支援組織が必要になってくる。また、外国人学生を受け入れるが、卒業する留学生を地域で救うことが必要であり、大学も何らかの努力をしないとはいけないと思うが、ここには何の記載もない。
- COC+で定着させる必要がある。そのために留学生をインターンシップへ派遣している。
- そのためには、行政と経済界と三者一体で行う必要があり、大学単体で実行できる内容ではない。経済界も何らかの形で留学生を活用していきたいという思いはある。
- さまざまなルートを活用しながら、留学生をこの地に定着させていきたい。

報告2 平成27年度法人評価委員会の評価結果について

<質疑応答>なし

報告3 教員の採用について

<質疑応答>なし

報告4 海外インターンシップの実施について

<質疑応答>なし

報告5 オープンキャンパス2016の実施状況について

<質疑応答>なし